

安全安心なシステムの設計・開発のための IT 人材育成教材等開発事業
(IoT セキュリティ教材等開発) の概要

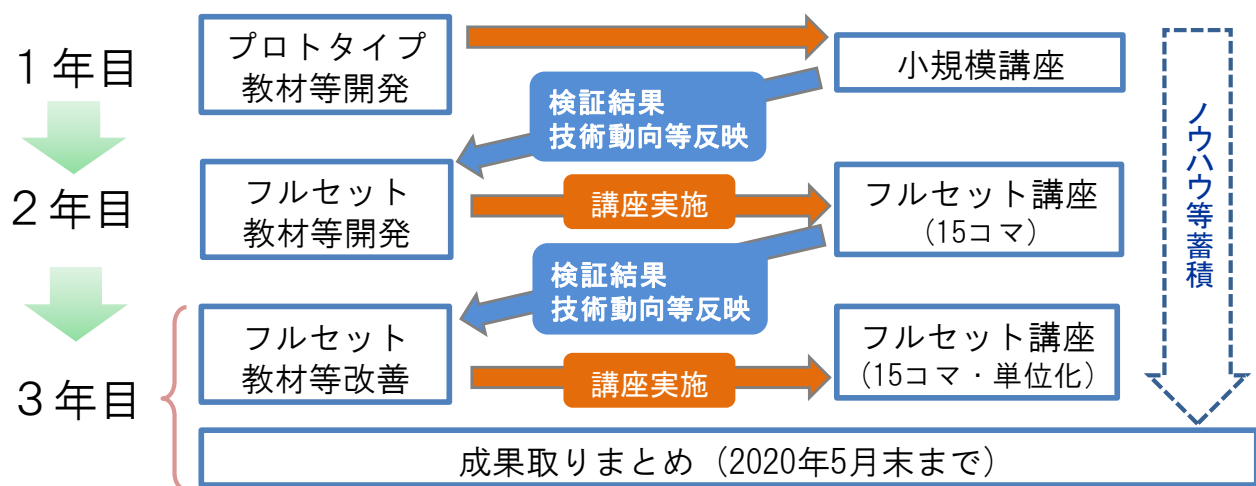
独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)
社会基盤センター

1. 教材開発事業の概要

様々な IoT 機器、システムの情報連携が進展することを見据え、様々な業種間での機器・システムの安全・安心な情報連携を実現するため、IPA/SEC は機器・システムを構成するソフトウェアに求められるセーフティ、セキュリティ要件、およびリライアビリティ要件に関する開発者向けの指針「つながる世界の開発指針」を策定し、普及してきた。

このような「つながる世界」に係るシステムの設計や開発に今後携わるまたは携わっている IT 人材 (学生・社会人) に対し、IPA/SEC は「つながる世界の開発指針」の実装に必要な安全性およびセキュリティの知識や技術を習得させるための実践的な教育方法や教材等を開発することとした。

開発した教育方法や教材等は無償で公開・展開することで、広く成果が活用され、安全安心な IoT 社会の実現に貢献する。



- ① 産業界の状況やニーズも反映した実践的かつ汎用的な教材等 (15 コマ分) を開発。
- ② 開発した教材等を使用した講座を学生や社会人に対して実施し、教育効果を検証。
- ③ 講座の実施で得られた検証結果や技術動向等を教材等に反映。

※ (②③)は複数回繰り返し、ブラッシュアップする。

事業実施イメージ

成果物：①カリキュラム

②教材（演習内容、講義ガイド等を含む）

③演習実施に必要な資料（演習環境や演習教材の仕様等）

④成果報告書（講座実施や評価結果等）

なお、開発する教材は 15 コマ分とすることから、「つながる世界の開発指針」の実装に必要となる安全性およびセキュリティの知識や技術全てを網羅することはできない。したがって、どのような内容に重点を置くかは、事業委託先が産業界からの意見等を踏まえつつ開発することとする。

2. 開発した教材の展開について

開発した教育方法や教材等は大学等の教育機関に向けて、IPA が無償で公開・展開する。具体的な公開方法や展開方法については現在 IPA で検討中。

<公開・展開方法案>

- ・ 関係学会や団体を通じて教育機関等へ広く展開する
- ・ 教材等は Web に置いてフリーダウンロードにするのではなく、使用した教育機関等を IPA が把握できるようにする
- ・ 教材等を使用した教育機関同士の意見交換ができる場を設置する